

# 株式会社Satisfill

2018年設立。「RANDOR（ランドー）ホテル」という自社ブランドの宿泊施設を全国に展開。札幌や京都、福岡などにレジデンス型ホテルを複数運営し、「日常に手の届く贅沢を」というコンセプトで広めの客室と充実した設備を備えるのが特徴。また\*\*“Hospitality with Technology”\*\*を掲げ、最新テクノロジーの活用による省力・効率的なホテル運営にも力を入れている。

## 【会社概要】

※2025年3月時点

会社名 | 株式会社Satisfill

本社所在地 | 福岡県福岡市中央区清川1-2-3

事業内容 | 旅館業

従業員数 | 95名



## 『脱炭素経営を実践している事例紹介』

### 『コスト削減・社会貢献の両立として脱炭素に取り組む』

宿泊業の特性である光熱費の使用料の高さは自社としても例外でなく、年間を通して膨大・多大なコストがかかっていました。そのコスト削減の方策の一つとして脱炭素に着目しました。省エネによる自社の事業コスト削減を実現しつつ、社会貢献にも繋がれるとより良いと考え、身近な取組から始めています。既存の宿泊施設におけるエネルギー使用状況のリアルタイムモニタリング等に加え、新施設の開業においてはエネルギー効率の高い家電製品、空調システム、断熱材を使用する等に取り組んでいます。

### まずは身近な取組から脱炭素に着手

COVID-19が落ち着き始めた頃から稼働率が回復・向上したことで、大々的な脱炭素の取組を開始するリソースの確保が難しくなりました。一方で、脱炭素の取組自体を止めることはせず、まずは身近な取組から着手することを決めました。例えば「電源をこまめに切る」、「電気交換の際はLED電球に切り替える」、「共有部エアコンの設定温度を適切に保つ」、「日々のタスク管理表に消灯や共有部のエアコンを消すタスクを追加する」等、日々の業務活動の改善に取り組んでいます。



### スタッフの意識改革を実感。将来的な経営指標への効果も期待

経営上の数字として大きく効果が表れている・実感できている状況には至っていませんが、身近な取組だからこそ働くスタッフの意識が省エネに対して敏感になっている実感があります。電気をつけっぱなしにしない、水は極力流しっぱなしで使わない等、これまで意識してこなかった細かい部分を従業員が自発的に考えているという成長を実感しています。

また、自発的に考える習慣はサービスにも活用可能と考えています。お客様へのサービスにおいても、他のホテルより省人化したオペレーション、例えば鍵の受け渡しはiPadにしてQRコードで完結するなどのよって人を省き、社員はホスピタリティに特化できて自発的にサービスの質向上に取り組める環境づくりの工夫していきたいと考えています。

### お客様の滞在満足度向上と環境貢献のバランスを日々試行錯誤

省資源等の観点からアメニティをバイキング形式でご利用いただいていたのですが、宿泊日数以上の持ち帰り等があったため、現在は各部屋に人数分を配置して、連泊で必要数が増えた場合などはお声掛けいただく形としています。満足度の高い滞在と環境への貢献のバランスをどのように取るかに留意しながら日々の業務に取り組んでいます。